

令和5（2023）年度 事業報告書

（令和5（2023）年4月1日～令和6（2024）年3月31日）

- I. 法人の概要
- II. 事業の概要
- III. 財務の概要

I. 法人の概要

I-1. 建学の精神・ビジョン・教育研究の理念と目標

I-1-1 建学の精神

「実学と個性教育による人格向上と、地域に貢献しうる人材育成」

・縁に感謝 ・「食と緑と人」の実学 ・個性教育 ・地域貢献

I-1-2 ビジョン

・地域を愛し、愛される大学

I-1-3. 教育研究の理念

豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境のなかで、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成するとともに、食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門分野において社会に貢献寄与できる人材を育成する。

I-1-4. 教育目標

I-1-4-1. 学士課程（大学）

『食・緑・人』に関する実学的教育と研究をすすめ、創造性を富み、人間性と社会性豊かな人材を育成する」という理念に基づいて教育研究し、専門分野において社会に貢献寄与できる人材の輩出を目標としています。

この目標を実現するため、全学的な教養教育組織およびそれぞれの学部・学科において、次のような人材を育成します。

- 1 教養、人間力、社会性および国際性を身に付け、社会に貢献寄与できる人材
- 2 環境と生命の調和および持続可能な発展を踏まえた「食・緑・人」の専門分野における基礎および実学を教育研究し、社会に貢献寄与できる人材

I-1-4-2. 修士課程（大学院）

南九州大学大学院園芸学・食品科学研究科は、『食・緑・人』に関する高度な実学的教育と研究をすすめ、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」という理念に基づき、「食・緑」に関する高度な知識・技能を教育研究し、高度専門職業人として社会に貢献寄与できる人材の輩出を目標としています。

この目標を実現するため、大学院研究科は次のような人材を育成します。

- 1 教養、人間力、社会性および国際性を身に付け、知識基盤社会の高度専門職業人となるべき人材
- 2 環境と生命の調和および持続可能な発展を踏まえた「食・緑」に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識を持つ人材

I-1-4-3. 南九州大学短期大学部

南九州大学短期大学部の「建学の精神」、「教育理念」、「教育目的」から導かれる国際教養

学科の教育目標は、以下の通りである。

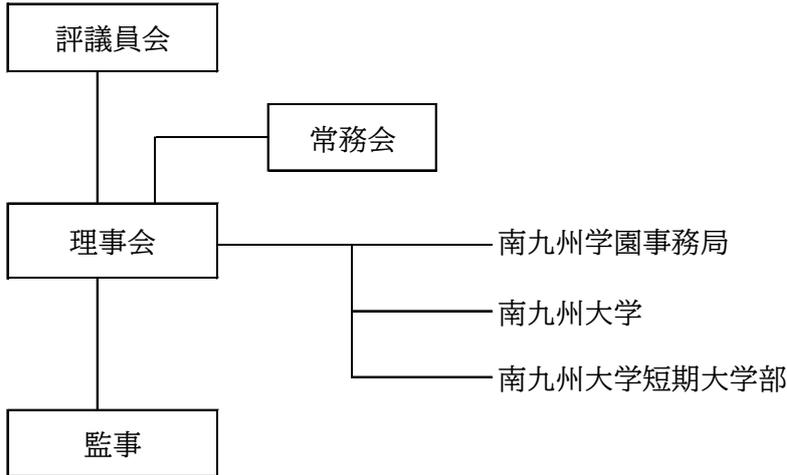
1. 日本語表現力を基盤とする幅広い教養を基礎に、ビジネス知識、外国語能力、コンピュータ・リテラシーを教授することにより、コミュニケーション能力を備えた社会的に有為な人材を養成する。
2. 社会や個人との豊かな関わりが持てる、ホスピタリティ・マインドを涵養する。

I-2. 法人の沿革

年 代		沿 革
昭和 40 (1965) 年	短大	南九州短期大学 (英語科) 開学
昭和 42 (1967) 年	短大	南九州短期大学に教養科及び体育科設置
	大学	南九州大学 開学 園芸学部園芸学科、造園学科 1 学部 2 学科 (宮崎県高鍋町)
昭和 44 (1969) 年	短大	南九州短期大学体育科廃止
昭和 51 (1976) 年	大学	園芸学部 に 農業経済学科増設
昭和 61 (1986) 年	大学	園芸学部 に 食品工学科増設
平成 11 (1999) 年	大学	大学院園芸学・食品科学研究科開設
平成 14 (2002) 年	短大	南九州短期大学英語科を国際コミュニケーション学科に名称変更
	大学	環境造園学部を設置、造園学科と地域環境学科 (農業経済学科を改組) の 2 学科編成。園芸学部 (園芸学科、食品工学科) との 2 学部体制となる。
平成 15 (2003) 年	短大	南九州短期大学国際コミュニケーション学科及び教養科廃止
平成 15 (2003) 年	短大	宮崎市霧島町に南九州短期大学国際教養学科を設置
	大学	健康栄養学部を宮崎市霧島町の宮崎キャンパスに設置、管理栄養学科 (新設) と食品健康学科 (食品工学科を改組) の 2 学科編成。園芸学部園芸学科は入学定員が 30 人増員の 80 人に。
平成 16 (2004) 年	短大	南九州短期大学専攻科 (国際教養専攻) 設置
平成 17 (2005) 年	短大	南九州短期大学創立 40 周年
平成 19 (2007) 年	短大	平成 19 年度評価基準の適格認定 (財団法人短期大学基準協会)
平成 21 (2009) 年	短大	国際教養学科の入学定員増認可(110 人→125 人)
	大学	環境園芸学部環境園芸学科を開設 (都城キャンパス) 園芸学部園芸学科及び環境造園学部造園学科、地域環境学科を改組
平成 22 (2010) 年	大学	人間発達学部 子ども教育学科を新設 (都城キャンパス)
	大学	健康栄養学部 管理栄養学科の入学定員を 60 人へ変更 (20 人増)
平成 24 (2012) 年	大学	健康栄養学部 食品健康学科を、食品開発科学科に名称変更。
平成 25 (2013) 年	大学	人間発達学部 子ども教育学科に特別支援学校課程の認可。

平成 27 (2015) 年	短大	平成 26 年度評価基準の適格認定 (財団法人短期大学基準協会)
平成 27 (2015) 年	短大	南九州短期大学 創立 50 周年を迎える
平成 29 (2017) 年	大学	南九州大学 創立 50 周年を迎える
令和 5 (2023) 年	短大	校名を「南九州大学短期大学部」へ変更し、入学定員を 100 人へ変更 (25 人減)

I-3. 法人組織図 (略図)



I-4 役員等

① 理事 (定数 7 人以上 9 人以内、 現任 8 人) (令和 5 年 5 月 1 日現在)

区分	役職 (前職/現職※)	氏名	就任年月日
常勤	学校法人南九州学園 理事長	寺原 典彦	R5.4.1
常勤	南九州大学、同短期大学部学長	中瀬 昌之	R5.4.1
常勤	南九州大学、同短期大学部副学長	関西 剛康	R4.6.1
常勤	学校法人南九州学園 法人事務局長	尾前 五朗	R5.4.1
非常勤	元・公益財団法人宮崎文化振興協会 専務理事	有馬 明雄	R5.3.27
非常勤	元・旭化成株式会社 取締役常務執行役員	水永 正憲	R5.3.27
非常勤	弁護士法人江藤法律事務所 弁護士	江藤 利彦	R5.3.27
非常勤	公益財団法人都市文化振興財団 理事	江夏 由宇子	R5.3.27

※前職・現職は主なものをひとつだけ掲載

②監事 (定数 2 人、現任 2 人) (令和 5 年 5 月 1 日現在)

区分	役職 (前職/現職※)	氏名	就任年月日
非常勤	元・宮崎県国民健康保険団体連合会 常務理事	江上 仁訓	R5.3.27
非常勤	元・国立大学法人宮崎大学 監事(常勤)	成合 修	R5.3.27

※前職・現職は主なものをひとつだけ掲載

③評議員（定数 15 人以上 19 人以内、現任 19 人）

（令和 5 年 5 月 1 日現在）

区分	役職（前職／現職※）	氏名	就任年月日
常勤	学校法人南九州学園 理事長	寺原 典彦	R5.4.1
常勤	南九州大学、同短期大学部学長	中瀬 昌之	R5.4.1
常勤	南九州大学、同短期大学部副学長	関西 剛康	R4.6.1
常勤	南九州大学、同短期大学部副学長	吉本 博明	R5.4.1
常勤	学校法人南九州学園 法人事務局長	尾前 五朗	R5.4.1
常勤	南九州大学 環境園芸学部長	杉田 亘	R5.4.1
常勤	南九州大学 人間発達学部長	宮内 孝	R5.4.1
常勤	南九州大学短期大学部 国際教養学科長	横堀 仁志	R5.4.1
常勤	学校法人南九州学園 経営企画戦略室長	黒木 博昭	R5.3.27
非常勤	元・公益財団法人宮崎文化振興協会 専務理事	有馬 明雄	R5.3.27
非常勤	元・旭化成株式会社 取締役常務執行役員	水永 正憲	R5.3.27
非常勤	弁護士法人江藤法律事務所 弁護士	江藤 利彦	R5.3.27
非常勤	公益財団法人都城市文化振興財団 理事	江夏 由宇子	R5.3.27
非常勤	都城市総合政策部長	江藤 博之	R5.4.1
非常勤	原田建設株式会社 顧問	荒川 新一	R5.4.1
非常勤	宮崎県立農業大学校 技術指導員	阿久根 治喜	R5.4.1
非常勤	有限会社エスク景観デザイン 代表取締役	大井手 健二	R5.4.1
非常勤	元・南九州短期大学教授	佐保 忠智	R5.3.27
非常勤	元・南九州大学教授	田上 敬子	R5.3.27

※前職・現職は主なものをひとつだけ掲載

I-5 教職員の人数(令和 5 年 5 月 1 日現在)

(1) 南九州大学

単位：人

学部	学科	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
環境園芸学部	環境園芸学科	12	2	2	0	0	16
健康栄養学部	管理栄養学科	6	3	3	0	6	18
	食品開発科学科	5	2	0	1	1	9
人間発達学部	子ども教育学科	5	7	1	1	0	14
教養・教職センター		2	2	1	1	0	6
大学 計		30	16	7	3	7	63

(2) 南九州大学大学院

単位：人

研究科	専攻	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
園芸学・ 食品科学	園芸学	9	2	0	0	0	11
	食品科学	7	2	0	0	0	9
大学院計		16	4	0	0	0	20

※大学院教員は全員学部教員と兼任

(3) 南九州大学短期大学部

単位：人

学科	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
国際教養学科	5	4	1			10

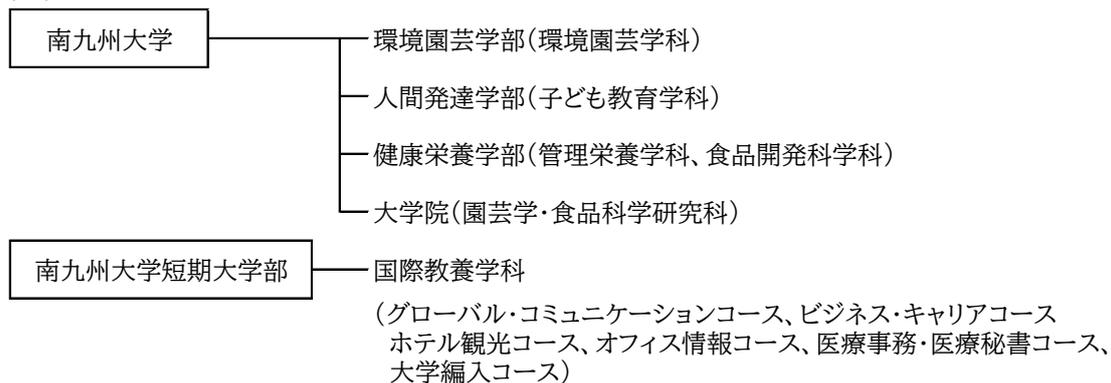
(4) 職員数

単位：人

部署名	専任職員	派遣	パート	合計	備考
事務局長	1			1	
管理部	16	1	2	19	
学務部	10		2	12	
都城事務部	20		2	22	
経営企画戦略室	10 (6)			10(6)	()は兼務者
合計	51	1	6	58	

I-6 設置学部、学生・生徒数

(1) 学部・学科等の構成



(2) 設置学部・学科の在学生数等 (令和5年5月1日現在)

① 南九州大学

単位：人

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
環境園芸学部	環境園芸学科	130	83	520	361
健康栄養学部	管理栄養学科	60	51	240	200
	食品開発科学科	40	42	160	140
人間発達学部	子ども教育学科	80	52	320	263
学部計		310	228	1,240	964

② 南九州大学大学院

単位：人

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
園芸学・食品 科学研究科	園芸学専攻	4	1	8	3
	食品科学専攻	2	2	4	4
研究科計		6	3	12	7

③南九州大学短期大学部

単位：人

学科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
国際教養学科	100	45	225	101

※令和5年度より入学定員を100名に変更

I-7 校地校舎等の状況

[校地等]

部門	所有 (㎡)	借用 (㎡)	計 (㎡)
南九州大学	19,396	99,621	119,017
南九州大学短期大学部	23,593	3,512	27,105

[校舎等]

部門	所有 (㎡)	借用 (㎡)	計 (㎡)
南九州大学	30,719	9,304	40,023
南九州大学短期大学部	8,903	0	8,903

II. 事業の概要

法人本部

I. 2023（令和5）年度事業の概要

学校法人南九州学園は、「実学と個性教育による人格向上と、地域に貢献しうる人材育成」を建学の精神に掲げ、南九州大学と南九州大学短期大学部という二つの設置校を通じて、地域と調和し、愛される大学を目指し、教育事業を展開している。

2023（令和5）年度は、年初の新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、各設置校ともに授業形態、クラブ活動、留学、就職活動、各種イベント、教職員の職務などがコロナ禍以前の状況に戻っている。特に、国際交流面においては、9月にベトナム・ナムディン省の人民評議会議長やナムディン省副知事など総勢10名による表敬訪問が実現し、本学園とナムディン省との交流活性化に繋がった。



また、宮崎・都城両キャンパスにおける各教室内 wi-fi 設置を昨年度より2年計画で順次実施し、本学園内の IT インフラの整備・充実を図った。

II. 項目別事業概要

1. 組織・体制

南九州大学および南九州大学短期大学部の組織・体制

環境園芸学部の入学生定員を令和6年度に130名（収容定員520名）から110名（収容定員440名）へ変更届出、現状の人口動態に即した定員適正化を図った。また、昨今の18歳人口の減少や4年制大学志向の高まりなど、近年の社会状況の変化による影響を鑑み、誠に残念ではあるが、令和7（2025）年度の入学生を最後に、令和8年度以降の学生募集を停止するという苦渋の決断に至った。

しかし、その一方で本学園では、短期大学部の学生募集停止と並行して、地域に根差した人材育成のため、デジタル・グリーン等成長分野をけん引する高度専門人材の育成を目指し、南九州大学において新学科を新設し、さらなる発展を目指した検討を進めている。（南九州大学は、令和5年度に大学・高専機能強化支援事業（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）に採択されている。）

2. 施設・設備

宮崎・都城両キャンパスにおいて、アクティブラーニングの視点に立った授業改善、情報活用能力の育成等を図るため wi-fi 設置事業を令和4年度より2年計画で実施し、令和5年9月に予定通り完了した。

南九州大学

I. 2023（令和5）年度事業の概要

南九州大学では、「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境のなかで、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成するとともに、食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門分野において社会に貢献寄与できる人材を育成する。」を教育研究の理念に掲げ、地域と調和し、愛される大学を目指し、地元自治体や企業等と連携しながら、社会実装型の教育事業を展開している。

2023年度より新型コロナウイルス感染症の影響が緩和したことで、対面による授業運営や課外活動、各種イベント等に取り組んだ。学生募集においては、高校教諭対象の合同説明会（2回実施）や高校生・保護者を対象とした対面型オープンキャンパス（7月・8月・3月の3回）等を積極的に実施した。

また、入試出願方法をインターネット出願に変更し、受験者の利便性向上を図った。さらに、入試方法においても、県外からの受験者へ配慮し、総合型選抜Ⅱ～Ⅴにおけるオンライン受験を継続的に実施した。

教育活動においては、文部科学省中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が示す「学修者本位の教育の実現」に向けた教育の転換を加速していくために、学長裁量費を利用し、さらなる学部・学科の教育内容の充実を図っている。令和5年度は、高大接続ならびに初年度教育のさらなる充実を図るため入学前教育プログラムの実施・検証など8つの事業を行なった。

また、本学園のビジョンである「地域を愛し、地域に愛される大学」を目指し、専任教職員が宮崎県内の地域や企業等と連携した社会展開型の研究活動による大学ブランド力の向上を目的とした6つの事業を実施している。

さらに、南九州大学では、文部科学省のデジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けた「大学・高専機能強化支援事業」において、「支援1（学部再編等による特定成長分野への転換等）」に選定された。デジタル・グリーン等の成長分野における学科新設は、AI戦略2019で示された大学における数理・データサイエンス・AI教育強化につながり、地元宮崎県においても重要となるDX人材育成の育成につなげる。

グランドデザイン答申においても大学連携の重要性が示されており、宮崎大学等と連携した地域活性化人材育成事業（SPARC事業）に続き、本年度「世界展開力強化事業」にも参画し、大学連携により教学改革と内部質保証を行っている。

地域連携活動においては、都城市と連携し地域課題解決型市民公開講座を本年度よりスタートし、2講座を実施した。また、特筆すべき実績として、都城市と連携した不登校対策支援プログラムを全国初の取り組みとして令和6年4月より実施することとなった。(写真：プログラムに参加する学生と池田都城市長とのランチミーティングの様子)



クラブ活動においては、特に本学強化サークルであるレスリング部の活躍が目ざましく「全日本学生レスリング選手権大会」で3名入賞をはじめとして優秀な結果を残した。



II. 教育・研究活動（抜粋） ※詳細は本学ホームページ掲載 [環境園芸学科]

■2023年4月に宮崎市シーガイアコンベンションセンターで開催されたG7宮崎農業大臣会合にブース出展された農林水産省「農業女子プロジェクト」に本学学生が参加。



■2023年10月に国立科学博物館で開催された特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」(主催：朝日新聞社、国立科学博物館)において、陳蘭庄教授が宮崎在来野菜「糸巻き大根」を品種改良し、2021年3月に品種登録出願した「南九パープルNo.1号(仮)」のレプリカが展示された。

■本学学生が「第34回緑の環境プラン大賞」(主催：公益財団法人都市緑化機構)のコミュニティ大賞を受賞



■陳蘭庄教授が品種改良し、品種登録出願した黒皮かぼちゃの新品種の南九ブラックボールNo.3(NBB)を知る！食べる！を体験できる「南九大健康料理教室」を管理栄養学科の渡邊教授と連携し開催。

■新谷教授・菅野教授らと農研機構等との共同研究成果が、Nature や Science とともに並び称される総合科学学術雑誌である米国科学アカデミー紀要(Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America :略してPNAS)に掲載。また、本研究成果は「The New York Times」にも取り上げられた。

■4年生4名と2年生1名がJGAP指導員(一社)日本GAP協会)に合格

[食品開発科学科]

- G7 宮崎農業大臣会合開催記念「米粉スイーツレシピコンテスト」で優秀賞を受賞
- 高校生対象の食品開発サマーキャンプ開催
- 日本食品科学工学会（第 70 回記念大会）および日本食品微生物学会第 44 回学術総会にて本学大学院生（食品微生物制御研究室）が発表
- 宮崎県食品開発センター主催の「企業販売力強化研修会（レトルト装置利用セミナー）」において、長田教授が基調講演
- 演習等や補習による資格取得サポートにより、フードスペシャリストに 14 名、専門フードスペシャリスト（食品開発）に 1 名、健康食品管理士に 2 名が合格。また、HACCP 管理者認定試験に 19 名が合格している。
- 地元の豊富な資源を活かし、株式会社栗山ノーサン様（都城市）から提供いただいた豚皮と豚のほほ肉を使用して「レトルトカレー」の開発
- 本学大学院生（食品微生物制御研究室）の研究論文「日向夏搾汁の製造工程における芽胞形成細菌の挙動」が日本食品科学工学会誌に掲載。



[管理栄養学科]

- 「食べ KID 宣言 もったいないコンテスト」(UMK テレビ宮崎主催) で入賞
- 都城市（農政課・健康課）との連携事業の一貫として、「地産地消で健康フェア」に参加
- 「宮崎県産かつおを美味しく食べる！」レシピ集第 2 弾が完成
- 若い世代向け「整う食バランス」簡単レシピパンフレットを作成
- 学生が農作業や加工体験を通して「食」と「農」について学ぶ「食と農をキビリ隊 in 木城町」を実施



[子ども教育学科]

- 公募型卒業研究テーマ成果発表会（主催：一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎）で本学学生が最優秀賞を受賞。
- 1 年生必修科目において霧島ホールディングス株式会社企画室 PR 課の協力による地域連携授業「霧島酒造が目指す SDGs」を実施
- 都城市連携事業として市民公開講座「こどもまんなか都城」応援シンポジウムを開催し 105 名が参加。こども家庭庁からも後援をいただき、当日は、こども家庭庁職員の方に社会人代表として参加し、学生と意見交換も行った。
- 日本初 「青空ラボ」都城市と連携した不登校対策支援プログ



ラムを令和6年4月より実施決定

■地域連携公開講座『「多様な性」の教育を受けなかった「あなた」へ』が開講し、県内外から150名が参加。

■高校生のための「子どもにかかわるボランティア講座」を実施、延べ95名の高校生が参加。令和6年度の講座参加者より子ども教育学科入学した場合の単位振替できる制度へ。

クラブ活動報告（学園指定強化サークル：レスリング部）

大会名	大会結果
全日本女子オープンレスリング選手権大会	57kg級 3位 長谷川 姫花（子ども教育学科1年） 68kg級 3位 持永 聖愛（子ども教育学科1年） 76kg級 3位 宮田 楓（環境園芸学科2年）
西日本学生レスリング選手権大会	【アルキメデス大会】 ■男子 65kg級 3位 環境園芸学科 上野山斗哉 ■女子 50kg級 2位 子ども教育学科 柁木歩未 50kg級 3位 子ども教育学科 河野愛琳 53kg級 3位 環境園芸学科 内野二葉 55kg級 2位 子ども教育学科 平戸紅葉 55kg級 3位 環境園芸学科 内野葉流 57kg級 2位 子ども教育学科 長谷川姫花 68kg級 優勝 子ども教育学科 持永聖愛 76kg級 優勝 環境園芸学科 宮田楓
全日本学生レスリング選手権大会	女子57kg級 第3位 長谷川姫花（子ども教育学科1年） 女子65kg級 第3位 持永聖愛（子ども教育学科1年） 女子76kg級 第3位 宮田楓（環境園芸学科2年）

南九州大学短期大学部

I. 2023（令和5）年度事業の概要

南九州大学短期大学部は、「1. 幅広い教養と高い品格を備えた人材の養成、2. 実学を重んじ、職業人としての専門知識を有する人材の養成、3. 地域社会に貢献しうる有為な人材の養成」の建学の精神として、昭和40（1965）年4月に開学し、令和6年度で59年目を迎える。「思いやりの心を有し、感謝を忘れず、地域社会に貢献しうる品格ある教養人を養成する。」の教育理念のもとで、「良識ある社会人としての教養と基礎学力の養成に努めるとともに、専門的、職業的な知識・技能を修得させ、国際的視野を広め、豊かな個性を持つ社会の有為な形成者として必要な資質を養うことを目的とする」ことを教育目的としている。このような「建学の精神」「教育理念」「教育目的」に基づき「1. 日本語表現力を基盤とする幅広い教養を基礎に、ビジネス知識、外国語能力、コンピュータ・リテラシーを教授する

ことにより、コミュニケーション能力を備えた社会的に有為な人材を養成する。2. 社会や個人との豊かな関わりが持てる、ホスピタリティ・マインドを涵養する。」との教育目標を掲げ、地元宮崎に貢献しうる専門職業人材の育成を実践している。

2023年度より新型コロナウイルス感染症の影響が緩和したことで、対面による授業運営や課外活動、各種イベント等に取り組んだ。学生募集においては、高校教諭対象の合同説明会（2回実施）や高校生・保護者を対象とした対面型オープンキャンパス（5月～10月、3月の7回）など積極的に実施した。

また、入試出願方法をインターネット出願に変更し、受験者の利便性向上を図った。

教育活動においては、各コースにおける専門職業人材育成のための講義や資格取得サポートを実践（資格取得状況については後述の「資格取得サポートの成果」参照）。

地域貢献活動においては、地域課題解決の取り組みとして「地域貢献プロジェクト」を実施。この取り組みは宮崎市からの調査研究の依頼を受け、2022年4月から宮崎市の中心市街地繁華街で発生しているデジタルサイネージによる騒音問題の解決を目指した取り組みである。この研究により、当大学の成果が地域の放送や新聞で広く紹介され、その成果をもとに新たな官民連絡会「魅力あふれるクリーンな繁華街作りのための連絡会議」が発足するなど地域課題の解決に貢献している。

II. 教育・研究活動（抜粋） ※詳細は本学ホームページ掲載

■G7 宮崎農業大臣会合に一般・学生サポーターとして本学学生が参加。事前研修会では、宮崎県や農林水産省のG7農業大臣会合担当者や国際プロトコルの専門家による説明やサポーター同士のグループワークも行われ貴重な体験となった。



■「地域貢献プロジェクト」成果発表会を実施。

国際教養学科の1年生8人が、ニシタチまちづくり協同組合など協力機関の関係者の方々に、「宮崎市中心市街地商店街ニシタチ」の現在抱えている課題や地域活性化に対する取り組みに関する提案した。

<協力機関>ニシタチまちづくり協同組合、宮崎商工会議所、宮崎県警察本部宮崎北警察署
<コメンテーター>宮崎市役所（環境部環境指導課・都市整備部景観課・危機管理部地域安全課）

■インターンシップ報告会を実施

ホテル・観光コースでは、毎年、実務体験という視点から宮崎市内の企業様のご協力を得て、インターンシップ（ホスピタリティ産業演習）を実施。本年度は、8月14日（月）～31日（木）の期間で、フェニックス・シーガイア・リゾート様（10日間）、ホテル マリックス様（5日間）のご協力を得て実施、10月19日（木）に報告会を行った。

■「単位認定留学体験報告会」を開催

報告会では、令和5年9月から12月に、アメリカのベルビュー・カレッジに単位認定留学した学生から、留学先での授業内容、楽しかったこと、苦しかったこと、留学経験を今後どのように生かすかなどについて発表が行われた。



[資格取得サポートの成果] ※合格体験記等の詳細は本学ホームページに掲載

南九州大学短期大学部では各コースの特色にあわせ計 37 資格の取得をサポートしている。以下はサポートする資格のうち主な資格の合格実績である。

- ホテル実務技能認定試験(上級)に在学生 4 名が合格
- 秘書技能検定準 1 級に在学生 5 名が合格
- 国内旅行業務取扱管理者試験(国家試験)に 3 名合格
- 旅程管理主任者 (ツアーコンダクター) 資格に 6 名合格